

～ひと、輝く・つながる・未来へ～ 南丹市の幼稚園・学校における取り組みを紹介します

南丹市教育委員会では、生涯にわたって主体的で豊かに学び続けるための基盤づくりを重視し、子どもたちの未来に向かって「たくましく生きる力」の育成を目指して取り組んでいます。市立の各幼稚園・小中学校においても、それぞれ特色ある様々な取り組みを通して、一人一人の豊かな学びと育ちの充実に向けた教育を推進しています。

本年度、各幼稚園・小中学校において行われた主な取り組みや実践に向けた方針についてご紹介します。

◆本年度の特色ある取り組みと成果◆

園部 幼稚園



消防車見学から遊びと学び、友達と対話し試行錯誤しながら遊びがより楽しくなっています

幼児にとっての学習は何よりも、遊びがおもしろそう！楽しそう！やってみよう！と心動かしながら、夢中になって遊び込むことです。幼児がやりたい遊びを繰り返し遊び込むことで、考えたり工夫したり、数や量・形等に気付いたりわかるようになってきたり、機敏に体を使いこなせるようになってきたり、言葉やコミュニケーション力、心情・意欲・態度等、将来生きていく上で必要な力が育ちます。遊びを通して、豊かな体験から得る学びを積み重ね、主体的な幼児を育てることを大切にしています。

八木中央幼稚園



保護者の応援のもと駅伝大会に臨む園児たちの様子

～一本のたすきをつないで～
年長児恒例の駅伝に今年度も取り組みました。『友達にたすきをつなぐため』『しんどくても最後まで走りきるぞ』とたすきに思いをつないで走ります。はじめの頃は、すぐに歩いたり、ペースがつかめずカー一杯走りすぎて歩いたりする姿もありましたが、参観日の駅伝大会では、保護者の応援のもと、とてもよい表情で走りきることができました。“精一杯、最後まで走り切った”という経験は今後の生活にも生かされることなのでしょう。

園部 小学校



目標達成に向かって縄跳びに挑戦する児童たち

1月に実施する「マイレコードトライアル」は、児童の学力や体力の向上を目的とする取組です。12月にいろいろな種目の中から自分の挑戦する種目を選び、自分が立てた目標に向かって学習に励みます。本番では全校児童が学習の成果を発揮し、友達や自分の記録の伸びを喜び合います。また、優秀な記録を残した児童は、その後のマイレコード集会でその実力を披露します。児童の意欲や向上心を高める本校の特色ある取り組みの一つです。

園部 第二小学校



受け継がれる和太鼓を通して絆を深め成長しよう児童たち

園部第二小学校の伝統として開校以来受け継がれてきた和太鼓。毎年6年生が太鼓を打つ姿を見て、低学年のころから、あこがれをもって取り組んでいます。講師の先生の指導を受け、練習に取り組み、はじめはそろわなかった音も、ひとりひとりが互いの音を聴き合い、励まし合い、仲間とのつながりを強くしていく中で、演奏も素晴らしいものに完成していきます。6年生にとって、仲間との絆を深めること、太鼓を通して自己成長できる園部第二小学校にとって、とても大切な取り組みです。

八木西小学校



心を一つにして合唱に取り組む児童たち

本年度八木西小学校は「笑顔と歌声があふれる学校」を合言葉に合唱に取り組みました。児童集会等での全校合唱では164名の子どもたちが心をひとつにして歌声を響かせました。また、5・6年生はNHK学校音楽コンクール京都府コンクールに挑戦し銅賞を受賞しました。審査員から「子どもらしい合唱でした」との講評もいただきました。これからも一人一人の子どもたちの笑顔と美しい歌声がいっぱいの学校にしたいです。

八木東小学校



ハイタッチを通して思いやりの心を育みあう児童たち

八木東小学校では、今年度の「人権月間」のテーマを「ふかめよう、一人一人のきずなの輪」とし、児童会本部委員を中心に「ハイタッチ運動」の取組を進めてきました。本部委員が「みんなの絆を深めるために、挨拶と一緒に『ハイタッチ』をしましょう。」と呼びかけ、下校時には玄関前で全校児童一人一人とハイタッチしながら、「さようなら」の声をかけています。大切なことは「相手の気持ちを考えること」であり、みんなが温かい気持ちで笑顔になれるようにと考え合いながら取り組んでいます。自然と相手の顔を見て元気に挨拶をかわすようになり、今では、本校自慢の笑顔の下校風景となっています。

殿田小学校



タブレットを使いデータをを用いて学びを深める児童たち

殿田小学校では、ICT機器の有効な活用を通して、児童の学びを豊かにする授業づくりに取り組んでいます。たとえば、体育科の跳び箱運動ではタブレットで撮影した児童自身のフォームを客観的に確かめたり、友達と美しいフォームについて話し合ったりしています。また、社会科や算数科では、ソフトを利用して自分の考えを効果的にまとめながら伝えたり、図形の条件を考えたりするなど、時代の変化に対応した教育活動を推進しています。

胡麻郷小学校



地域の方々に笑顔や感動を届ける金管バンドの児童たち

胡麻郷小学校の金管バンドは、今年で30周年を迎えました。地域での演奏活動を中心にしており、地域の皆さんから愛される存在となっています。毎年先輩から後輩へ演奏・演技の技術とともに、代々大切に使用してきた楽器、そして、この活動を通して磨いてきた3つの心を引き継いでいます。3つの心とは、物を大切にすること、仲間と音楽を楽しむ心、そして、最後まであきらめず努力する心です。地域の方々へ笑顔をお届けする本校の特色ある教育活動です。

美 山 小 学 校



地域の方々とともに教育資源から学ぶサテライト教室の授業を受ける児童たち

文部科学省指定「少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業」3年目、最終年度の取り組みを地域の推進委員の皆様と協働で取り組みました。特徴的な取り組みとして、再編後の旧小学校を会場にして、地域の教育資源から学ぶ『サテライト教室』があります。本年度は、総合的な学習の時間に、「西の鯖街道」をテーマに、物資のみならず文化も伝播された興味深い調査・研究を地域の講師から、6年生と地域の方がともに学びました。

園 部 中 学 校



話し合いを通して、地域とのつながりを感じあった生徒たち

園部中学校では「地域とともにある学校づくり」を進めています。生徒が、将来、地域を担っていく人材になるよう、学校と地域の皆さんが協働して生徒たちに授業を行っています。1年生で実施した「地域防災学習」では、事前に何度も話し合い（熟議）を重ね、授業の本番を迎えました。生徒たちは、地域の方々の思いに触れ、自分たちが大切にされていることに気づきました。授業後は、「地域とのつながりを深めたい」という気持ちが生徒から出ていました。これからも、この地域との絆を大切に、「地域とともにある学校づくり」を進めていきます。

八 木 中 学 校



服部さん、前田さんから貴重な経験を学んだ全校生徒たち

合唱曲『手紙』は、先輩から受け継いで大切に歌い続けてきた「心の歌」であり、八木中生が築き上げた「伝統」です。10年の節目となる今年、イタリア在住のオペラ歌手服部響子さんとともに『手紙』を歌う機会に恵まれました。「言葉を大切に」「歌詞に思いを込めて」という指導の後、全校で歌い上げた『手紙』は心に響く素晴らしい歌声となり、同行のピアニスト前田菜々子さんに「音楽の原点を見た」と言ってもらえました。世界で活躍される音楽家とともに新たな1ページを開くことができた瞬間です。

殿 田 中 学 校



南丹高校工業科で製作された二人乗り自転車に乗る生徒



北桑田高校森林リサーチ科への施設見学

従来の口丹波の公立高校6校の説明会を聞く形の進学説明会を、小規模校の利を生かして、班毎に「訪問取材」する形に変更しました。高校では、丁寧な説明と質疑応答、授業や部活動の見学など約2時間お世話になりました。帰校後は、クラスで報告会を開催して交流するとともに、総合学習発表会で全校生徒にも知らせ、1・2年生のキャリア教育としても位置付けています。この取組は、6月の口丹波高校合同説明会にもつながっています。

美 山 中 学 校



学力向上に向けて主体的に学び合う生徒たち

美山中学校では、生徒会総務局の呼びかけで生徒学習会「Student Teacher」が行われています。そこには、分からないことを互いに教え合い、学力向上に向けて真剣に学ぶ姿勢があります。授業での協働的な学びの体験から、教え合い効果や仲間とともに向上する喜びを感じた生徒たちの自発的な取組です。自由参加ですが、多くの生徒が互いに教え合って理解を深める様子が見られ、生徒たちの主体的・共働的な学びの場となっています。

桜 が 丘 中 学 校



目標達成に向け大縄跳びに挑戦する生徒たち

開校4年目にして、本校単独で文化祭と体育祭を実施しました。特に、体育祭では、生徒の自主性・主体性を大切に、式典や各競技の運営も生徒の手で取り組ませました。少ない人数ながら、2つの組に分かれて各競技を競いました。そして、競技の最後には敵・味方関係なく全校生徒で協力することを目標に、大縄跳びに取り組み、何回跳べるかチャレンジしました。今回は18回でしたが、今後も「さくらギネス」として大縄跳びにチャレンジしていきます。

◆南丹市教育委員会の取り組みと事業展開について◆



南丹市では、全ての幼児、児童生徒が共に学び合い育ち合う共生社会の実現を目指した教育を進めています。今年度は、京都府立丹波支援学校が立地する南丹市立八木中学校ブロックを推進地区とし、八木町内の2小学校・1中学校、丹波支援学校の4校を中心に、交流及び共同学習の一層の充実を図るため、心のバリアフリー推進事業に取り組んでいます。この事業の一環として、南丹市全域に「心のバリアフリー」の理解を広めるため、障害者アスリートの根木慎志氏（2000年シドニーオリンピック・パラリンピック 車椅子バスケット日本代表キャプテン）をお招きし、昨年10月31日に『南丹市心のバリアフリー交流会』を開催しました。

当日は、八木中学校ブロックの児童生徒と丹波支援学校の児童生徒が車椅子バスケットボールやボッチャといったパラスポーツと一緒に体験することを通して交流し、一緒に楽しい時間を過ごしました。また、交流会の中で、講師の根木氏からは、「バリアになっているのはそこにある物ではなく、人の心の中にあること」等、子どもたちに分かりやすくお話いただき、その内容は参加した児童生徒の心を揺さぶるものでした。南丹市では、今後も共生社会の実現に向けて、心のバリアフリーの意識を根付かせていく取組を一層推進してまいります。

〇〇〇社会教育課が取り組む事業体系〇〇〇

=人と人とのつながりと生涯学習のひろがりに向けて=

◆ 生涯にわたって続く「学び」と「育み」を目指して

- 「歴史を知る・歴史文化に学ぶ」取り組み・・・企画・展示事業
- 「歴史・文化を今と将来につなぐ」取り組み・・・文化財保護事業
- 「学びと育みを支える」取り組み・・・社会教育(体育)施設の充実
- 「健康づくりとスポーツの裾野を拡大する」取り組み
・・・社会体育振興事業
- 「本を通じた自己実現を支援する」取り組み・・・図書館事業
- 「共に学ぶ機会を提供する」取り組み・・・文化活動・交流体験事業

◆ 「人権文化」の花咲くまちを目指して

- 「人権への学びを深める」取り組み・・・人権教育推進事業
- 「人権啓発指導者を育む」取り組み・・・人権教育推進事業

◆ 地域社会等との協働連携した児童育成を目指して

- 「地域社会の力を生かした子育て環境をつくる」取り組み
・・・子どものための地域連携事業
- 「親育ちを支援する」取り組み・・・家庭教育支援事業
- 「子どもの居場所と交流の場をつくる」取り組み・・・児童健全育成事業

南丹市教育委員会では、平成31年1月に「第2次南丹市教育振興基本計画」を策定し、南丹市の目指す市民像「人権が尊重される温もりのある地域社会の一員として、自然と文化の薫り高い『ふるさと南丹市』を愛し、生涯にわたって主体的で心豊かに学び続け、ともに生きようとする市民」の実現に努めていきます。

特に、地域社会総がかりで子どもたちを育てていくため、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を活用し「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、教育の体制づくりを進めていきます。